

取得可能な資格

- **アメリカでの修士号**
MBA (Master of Business Administration : 経営学修士)
- **教職関連資格**
高等学校教諭一種免許状(情報)
高等学校教諭一種免許状(公民)
- **必要な科目履修により取得可能な資格**
社会調査士 / 博物館学芸員
- **取得をめざす資格**
日商簿記検定 / 経営学検定 / 中小企業診断士
証券外務員 / ITパスポート / 基本情報技術者
ネットワークスペシャリスト
情報セキュリティスペシャリスト
TOEIC / TOEFL

サポート体制

- **資格取得支援**
検定料支援や資格取得表彰制度によって各種資格を取得しやすいのも特徴のひとつ。教職関連科目や学科が設定している専門科目の受講により、高等学校教諭一種免許状(情報・公民)や社会調査士の資格取得が可能となり、将来の活躍の場も広がります。
- **就職支援プログラム**
経営情報分野の就職率は高く、さらに「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムを実施し、全学的な総合的就職サポート体制の構築を行っています。

卒業後の進路

経営スペシャリスト / 金融スペシャリスト / ITスペシャリスト / システムエンジニア(SE) / ネットワークエンジニア / WEBデザイナー / プランナー / 経営コンサルタント / NPO法人職員 / 教員 / 公務員 など

学 費

(単位:円)

| 納付区分 | 授業料 | 実験実習費 | 施設設備費 | 合計 |
|-------|---------|---------|---------|-----------|
| 前期納付金 | 422,500 | — | 56,500 | 479,000 |
| 後期納付金 | 422,500 | 120,000 | 56,500 | 599,000 |
| 計 | 845,000 | 120,000 | 113,000 | 1,078,000 |

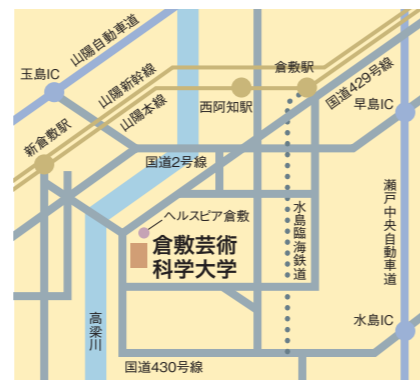
※左記以外に初年度のみ入学金22万円が必要となります。
※MBA取得のためにフィンドリー大学に留学する場合は別途費用が必要となります。本パンフレット「MBA取得留学コースの学費および生活費(概算)」をご参照ください。

お問い合わせ・アクセス



大学情報 <http://www.kusa.ac.jp>
 経営情報学科情報 <http://www.kusa.ac.jp/mi/>
 〒712-8505 岡山県倉敷市連島町西之浦 2640
 ☎ 0120-001163 (受験生ホットライン)
 TEL.086-440-1113 (入試広報部直通)
 ✉ koho@kusa.ac.jp

- ◆ JR山陽本線・山陽新幹線「新倉敷駅」下車
- ◆ 両備バス「倉敷芸術科学大学行」に乗車し、「倉敷芸術科学大学」下車(所要時間約12分)



MBA 最短5年で取得可能!

**ビジネスパーソン「三種の神器」
(経営学・IT・外国語)のマスターをめざす**



産業科学技術学部
経営情報学科 定員
60名

Department of Management and Information Science

2011年4月新設



学科の特徴・めざすもの

●社会系と自然科学系の領域横断的教育

- ・社会科学系の経済学・金融学・経営学
- ・自然科学系の情報学

●企業経営ならびにITのスペシャリスト育成

●最短5年間でアメリカでのMBA取得をめざせるコース設置

●入学時から卒業時まで親身になった少人数・個別指導の徹底

MBAとは?

MBAとはMaster of Business Administration、すなわち経営学修士のことです。MBAは、もともと、アメリカにおいては、企業経営を科学的アプローチによって捉え、経営の近代化を進めることが目的。多くは、実務経験者を対象とするビジネススクールで授与されます。MBA取得留学コースでは、このMBAを実務経験を問わずに取得することをめざします。

3つの学習コース

MBA取得留学コース

経営のスペシャリストへ、アメリカでのMBAの取得をめざす

学科卒業を前提として、フィンドリー大学に留学しMBAの取得をめざします。MBAは大学院資格なので、経営情報学科での卒業資格(学士学位)が必要です。フィンドリー大学の語学学校(IELP)を修了すれば、倉敷芸術科学大学の学士が修得できます。

企業経営コース

経営・金融スペシャリストをめざす

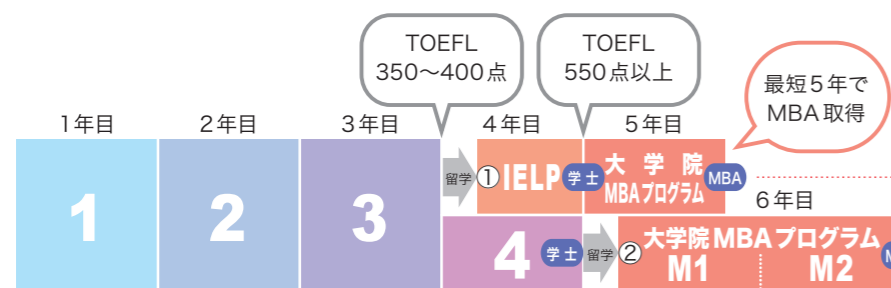
今日の情報化社会では、情報技術への理解とその有効利用なしには企業経営も成り立ちません。このコースでは、最新の情報技術にも精通した企業経営や金融分野のスペシャリスト育成をめざします。

情報システムコース

ITスペシャリストをめざす

今や、情報技術の進歩が企業経営の革新をもたらし、新しい企業経営がさらに情報技術の進歩を促します。このコースでは、国際的な視野をもち、企業経営や金融の分野にも明るいITスペシャリスト育成をめざします。

MBA取得留学コースの学びの流れ



倉敷芸術科学大学入学後の3年間で、MBA取得の前提となる科目を履修します。4年目からはアメリカ フィンドリー大学に留学しますが、留学時には語学レベル審査があります(TOEFL350~400点相当と推定)。留学後、まずはフィンドリー大学の語学学校(IELP)に入学し、1年間英語力向上のための研修を受け、TOEFL550点以上のレベル到達をめざします。一定の基準をクリアすれば、翌年は、大学院MBAプログラムに進学。所定の単位を修得することによって、最短5年間で学位MBAの取得が可能となります。

MBA取得留学コースの学費および生活費(概算)

●学費

- ①5年間で取得をめざす場合
 - 1年目 通常の学費(107.8万円)+入学金(22万円)
 - 2~3年目 通常の学費(107.8万円)
 - 4年目 通常の学費(107.8万円)+IELPの学費(約2万ドル=約180万円) *ただし80万円分の学費を補助します。
 - 5年目 大学院MBAプログラムの学費(約2万ドル=約180万円)
- ②6年間で取得をめざす場合(大学院MBAプログラム2年間)
 - 1~4年目 通常の学費(各107.8万円・1年目のみ入学金22万円)
 - 5~6年目 大学院MBAプログラムの学費(各約2万ドル=約180万円) *フィンドリー大学MBAプログラムに進むには、学士修得語学審査の合格が条件となります。

●アパート費用(月額)

約300ドル=約3万円

※学費やアパートの費用などは2010年時点での概算額です。
※為替相場については、1ドル=90円で換算しています。

カリキュラム

共通専門科目

岡山ビジネス研究/経営学概論/国際政治学/民法総論/入門統計学/情報と職業/簿記論/海外事情/商法総論/統計解析の基礎
コンピュータリテラシ/簿記論演習/情報ネットワーク概論/コンピュータ基礎/ビジネスと宗教/情報システム基礎/経済学原論
情報社会とモラル/知的財産権

ゼミナール・専門関連科目など

インターンシップ/プロジェクト実習/ITパスポート特論/基本情報技術者特論/ITスペシャリスト特論/ゼミナール/卒業研究

MBA取得留学コース

MBAアカウンティング入門
MBAリーダーシップ入門
MBAマーケティングリサーチ入門
MBAファイナンス入門
コンピュータ会計
ビジネス法
ビジネス英語
MBA英語特論
社会調査概論
社会調査実習
調査と計画
データ解析

企業経営コース

企業経営論
経営と倫理
金融論
会社法
人事経営論
経営戦略論
経営資金調達論
アジアビジネス経営論
地域金融産業論
投資銀行実務入門
金融実務論
金融実務特論
証券外務員論

情報システムコース

情報デザイン概論
ユニバーサルデザイン論
情報ネットワーク
情報セキュリティ
コンピュータグラフィックス実習
経営情報学実験
プログラミング基礎
アルゴリズム
認知科学概論
データベース



Pick Up 専門科目

MBAリーダーシップ入門

時代の変化に対応するリーダー像を実務を通して学びます。

MBAマーケティングリサーチ入門

消費者ニーズの変化に対応したマーケティングのあり方を学びます。

企業経営論

激動する現代の経営環境変化に対応する問題解決能力を身につけます。

経営戦略論

産業と企業の歴史的な栄枯盛衰や代表的な企業家の研究を行います。

情報ネットワーク

インターネットの仕組みやサービス、通信サービスを学びます。

経営情報学実験

コンピュータと情報処理について、実験実習を通じて学びます。

フィンドリー大学での生活

アメリカオハイオ州にあるフィンドリー大学は、本学の設置母体「加計学園」の海外提携校であり、日本をはじめ世界各国の大学と提携を結んでいる国際的の大学で、1882年に設立されました。現在、4,500名以上の学生が在籍しています。キャンパスは明るい雰囲気、陽気な校風が特徴です。留学後は、アパートまたはフィンドリー大学が用意する寄宿舎で生活することになります。



フィンドリー大学



Pick Up 研究室

起業学研究室 [後藤 裕]

企業は不況時に新しいビジネスチャンスをつかみ、新市場を創造しています。「日本の優良企業がどのように組織的に新しいビジネスチャンスを創造しているのか」を調査し、中小企業に転用できる方法を研究しています。

海外ビジネス研究室 [岡野 喜良]

日本企業は収益の大半を海外ビジネスから得ています。海外に積極的な企業(三菱自動車など)を選び、会社概要・戦略、海外事業の経緯・問題・将来展望などを研究します。

会計学研究室 [八角 憲男]

企業(組織)価値を決定づける要因が、ブランド(無形資産)であることが知られるようになりました。それを支える人的資産、組織資産などによる価値創出の最大化やブランド価値評価を中心に研究しています。

インターネット工学研究室 [小林 和真]

インターネット工学を専門に学習する研究室です。学内ネットワークシステムも研究室所属学生とともに運用しています。企業(政府)との共同研究等を通じ、実業に即した経験も体験できます。

フィジカルコンピューティング研究室 [小川 聡]

人間がコンピュータとコミュニケーションする手段としてマウスやキーボード以外のボディアクションを研究しており、映像や音楽をプログラミングする双方向のメディア作品を作っています。

データベース・情報検索研究室 [ブラダン・スジツ]

従来の情報検索やデータベース技術では、主にテキストデータや文字や数値のデータ型が対象になっています。本研究室では、動画や音声のような連続メディア、そして同期化メディアストリーム・半構造テキストデータのような新しい型のデータを表現するために必要なモデル、また、それを効率良く検索するための問い合わせモデル・最適化手法に関する研究を行っています。